

「ズル休み」

田辺晴彦

登場人物

渡辺 健人	(13)	中学1年生の男子
橋野 愛子	(13)	健人の幼なじみ
須田 将大	(13)	健人の親友
渡辺 結衣	(45)	健人の母親
渡辺 快人	(17)	健人の兄
麻田 久美	(36)	健人の叔母
ひかる	(23)	デリヘル嬢
滝本	(37)	コンビニの店長
新田	(19)	コンビニのアルバイト
阿部	(49)	健人の担任教師

○ 公園（夜）

須田将大（13）と橋野愛子（13）が隣合って小さくブランコを揺らしている。

将大「（揺れを止める）あのさ……」

愛子「（揺れたまま）何？」

将大「いや……中間勉強してる？」

愛子「うん。一応」

将大「そっか……そうなんだ……」

愛子「……（ため息をついて）」

ブランコの揺れを止める愛子。

不意に将大にキスする。

将大「（目を丸くして）あ……」

ブランコを漕ぐ愛子。

将大「……あのさ」

愛子「だから何？」

将大「その……もう一回……」

愛子「……」

愛子、反対側の道路からこちらを見ている人影（背格好は中学生）に気付く。

愛子「……健ちゃん？」

将大「え！ 健人？」

慌てて走り去る人影。

それを目で追う将大と愛子。

将大「やっべ……」

愛子「……」

○ 渡辺家・外観（朝）

ごく普通の一軒家。

○ 同・2階・健人の部屋（朝）

布団の中で何かを擦っている少年・渡辺

健人（13）。

誰かが階段を昇ってくる音が聞こえると、
布団の中から擦っていた体温計を取り出し、
腋の下に挟む。

母親の渡辺結衣（45）が入ってくる。

結衣「どう調子は？」

健人「んんん……」

結衣「見せてごらん」

健人の体温計を確認する結衣。

結衣「微妙に熱あるね」

健人「ゴホッ、ゴホッ」

結衣「どうする？ 学校休む？」

健人「……やむを得ない」

結衣「何を偉そうに。ったく」

健人の額に冷えピタを貼ろうとする結衣。

健人「（よける）ちよ、いいよ」

結衣「だーめ。熱逃がさないと（貼る）」

健人「……」

結衣「悪いけどパート休めないからね。ママ

いなくても平気？」

健人「当たり前じゃん」

結衣「お昼はお粥温めて食べなさい。5時に

は帰るから」

健人「分かった」

結衣「夕飯何がいい？」

健人「……カレー」

結衣「カレー？ あんた風邪のくせに食欲は

あんのね」

兄の渡辺快人（17）が顔を覗かせる。

快人「お母さんメシ代」

結衣「テーブルの上にあるでしょ」

快人「（健人を見やる）風邪？」

結衣「そう。あんたも気をつけてよ。最近急に冷えるから」

快人「……お前仮病だろ？」

健人「うっせえバカ快人！」

快人「勝手に部屋入ったら殺すかな」

結衣「こら！ 乱暴な言葉使わないの！」

快人「へいへい」

快人、去る。

結衣「何か欲しいものある？」

健人「ケータイ」

結衣「今関係ないでしょそれ」

健人「みんな持ってるよ」

結衣「よそはよそ。うちはー」

健人「うち。聞き飽きたっつーの」

結衣「欲しけりやパパに頼みなさい」

健人「……じゃあトランクス買ってよ」

結衣「パンツならたくさんあるじゃない」

健人「勘弁してよ。俺だけだつてブリーフ」

結衣「まだ穿けるのに勿体ない。もっとチン

チン大きくなったら買ったげる」

健人「デリカシーがねえよ……」

結衣「子供が色気づくんじやないの」

結衣、去る。

健人「……」

パンツの中身を確認する健人。

○ 同・表（朝）

車庫から自転車を出す結衣。

跨がって走り出す。

○ 同・2階・健人の部屋（朝）

走り去る結衣を窓から見やる健人。

冷えピタを剥がして、ゴミ箱に捨てる。

タイトル『ズル休み』

○ あおば台中学校・一年B組（朝）

騒がしい教室。

担任教師の阿部（49）が入ってくる。

阿部「おら座れ！」

慌てて席に着く生徒たち。

阿部「出欠取るぞ」

と、生徒の名前を呼んでいく。

×

×

×

阿部「横沢」

横沢「ういっす」

阿部「和田」

和田「はい」

阿部「出席と。はい以上」

手を挙げる将大。

将大「先生」

阿部「何だ？」

将大「あの、健人は？」

阿部「渡辺は風邪だ」

将大「そっすか……」

将大、隣席の愛子を見やる。

将大「……風邪？」

愛子「（興味ない）さあ」

○ 渡辺家・1階・LDK

沸騰するやかん。

カップ麺にお湯を注ぐ健人。

× × ×

ポテチをカップ麺に投入する健人。

音を立てて美味そうに啜る。

× × ×

漫画雑誌を読み耽る健人。

× × ×

ソファに寝そべりテレビを観る健人。

ワイドショーでコメンテーターが持論を

展開している。

健人「……くっだらね」

○ 同・2階・健人の部屋

ブタの貯金箱からお金を取り出す健人。

万札が1枚と、硬貨が少々。

健人「やっぱ足んね……」

何事か決心する健人。

○ 同・同・廊下

快人の部屋の前で佇む健人。

ドアに提がったホワイトボードに『入ったら罰金！』と書いてある。

健人「……よし」

と、意を決してドアを開ける。

○ 同・同・快人の部屋

勉強机を漁る健人。

健人「あれ？……」

と、次は本棚を物色する内に、漫画本に挟まれた封筒を見つける。

封筒の中には万札が5枚。

健人「（にんまりと笑う）」

健人、1枚だけ抜き取ると、封筒を元の場所に収める。

○ 同・同・廊下

快人の部屋から出てくる健人。

今度は向かいの父親の書斎へと忍び込む。

○ 同・同・父親の書斎

デスクトップを起ち上げる健人。

慣れた手つきでネットに接続。

検索窓に『デリヘル 世田谷』と入力して、デリヘル業者のサイトを表示。

掲載されている女性たちの写真（モザイク入り）を、薄目を開いて、熱心に吟味した後、予約フォームに入力していく。

健人「女性のタイプ……スレンダー……タバ

コ……吸わない……だな」

と、『予約』ボタンをクリック。

健人「これでよし」

ネットを閉じようとするが、画面に映るポルノサイトのバナー広告が気になり、ついクリック。

健人「（ポルノサイトを見て）おお……」

膨らむ股間。

ティッシュ箱を手に取り、ズボンを下ろ
そうとした、その瞬間……。
1階で電話のベルが鳴る。

健人「！」

○ 同・1階・LDK

電話のベルが鳴っている。

健人がやってきて、受話器を取る。

健人「はい」

男の声「毎度ありがとうございます。ハレ
ンチ学園ですけども。こちら、渡辺さんの
お宅でよろしかったでしょうか？」

健人「……（ダミ声で）はい」

男の声「ネットからのご予約ありがとうございます
いますー。生憎ですねえ、今、ご要望のタ
イプの子がみーんな出払ってましてー。お
伺いが3時頃になりそうなんですーがー？」

健人「（ダミ声で）あの……もう少し早くな
りませんか？……」

男の声「すいませーん。3時が限界ですねえ」

健人「……（ダミ声で）じゃあ、いいです」

男の声「え！ キャンセルですか！」

健人「（ダミ声で）そうじゃなくて！……3

時でいいです……」

男の声「ありがとうございますう！ では後

程女の子がお伺いします。失礼します」

唐突に切れる電話。

健人「……3時か」

時計を見やる健人。

時計の針は11時を指している。

○ コンビニ・表

作業服姿の男たちが屯している。

○ 同・店内

レジ番の結衣。

結衣「（欠伸する）」

店長の滝本（37）がやってくる。

滝本「おはよう渡辺さん」

結衣「あ、おはようございます」

滝本「どう客足は？」

結衣「いつも通りですね」

滝本「そう。休憩、お昼混む前に（どうぞ）」

結衣「ありがとうございます」

滝本とレジを交代する結衣。

結衣「あ、店長」

滝本「うん？ 何？」

結衣「今日、早くあがれたりします？」

滝本「どうして？」

結衣「下の子が学校休んでて」

滝本「あらら。風邪？」

結衣「熱がちよっと」

滝本「最近寒いもんね。いいよ。3時になっ

たら新田君来るし」

結衣「ありがとうございます」

○ 同・バックヤード

パイプイスに腰を下ろす結衣。

手提げ袋から弁当箱を取り出す。

結衣「……そうだ」

ケータイを取り出し、電話をかける。

結衣「……あ、久美？ あんた今日暇？」

○ あおば台中学校・一年B組

生徒たちが給食の準備中。

献立はカレーにコーヒー牛乳。

× × ×

阿部「渡辺の分、誰か飲んでいいぞ」

とコーヒー牛乳を掲げる阿部。

一斉に群がる男子生徒たち。

それに与せず、向かいの席の愛子を見や

る将大。

淡々とカレーを口に運ぶ愛子。

将大「……」

愛子「（将大の視線に気付く）……何？」

将大「別に……」

と、コーヒー牛乳を吸う。

○ 渡辺家・1階・LDK

冷蔵庫の中身を物色する健人。

○ 同・2階・父親の書斎

健人、アイスキャンデイーを舐めながら、入ってくる。

カーテンを閉めて、パソコンの前に座ると、ポルノサイトに齧りつき、エロ動画を大音量で流す。

健人「（夢中で見入る）」

アイスキャンデイーを口に咥えて、やらティッシュ箱を手に取り、ズボンを下ろそうとした、その瞬間……。
パソコンがフリーズする。

健人「ん？……」

小さく奇妙な音を立てるパソコン。
健人がキーボードをたたくが、エロ動画で固まったまま動かない。

健人「やべえ……」

玄関の呼び鈴が鳴る。

健人「！」

手近な布をパソコンに被せる健人。

○ 同・1階・玄関

アイスクャンデーを手に持ったまま、
そっとドアを開ける健人。

買い物袋を両手に提げた女性、叔母の麻

田久美（36）が立っている。

久美「おす」

健人「おばさん……」

久美「誰がおばさんよ！ 久美お姉ちゃん、
でしょ！」

健人「……なんか用？」

久美「さっきお姉ちゃんから電話もらって、
あんた学校休んでるっていうから。お昼ご

はん作ったげるわよ」

健人「……結構です」

ドアを閉めようとする健人。

久美「（慌てて止める）こらこら！ 人の好
意を無下にしないの！」

久美、強引に家の中へ。

健人「……（舌打ち）」

アイスクャンディを頬張る健人。

○ 同・同・LDK

キッチンで調理する久美。

それを鬱陶しそうに見つめる健人。

久美「あんた。いいの寝てなくて？」

健人「お構いなく……」

久美「あっそ。すぐ出来るから待ってな」

健人「……」

×

×

×

久美「へいお待ち」

テーブルに置かれる二人分のラーメン。

健人「またラーメン？」

久美「またって何よ？」

健人「いや……何でラーメン？ 病人なのに」

久美「食欲はあるってお姉ちゃん言ってたか

ら。あんたラーメン好きでしょ？」

健人「好きだけどさ……」

久美「ほら早く食べな。のびちやうよ」

健人「……」

箸を取って食べようとする健人。

久美「こら！ いただきますは？」

健人「……いただきます」

久美「はい、召し上がれ」

ラーメンを啜る健人。

久美「美味しい？」

健人「んんん……」

久美「んんんて何よ。微妙ね」

久美もラーメンを啜る。

久美「……あんだ。最近どうなの？」

健人「どうって？」

久美「調子はどうなのよ？ 学校楽しい？」

健人「フツー」

久美「フツーって何よ。勉強してんの？」

健人「フツー」

久美「だからフツーって何よ！」

無視してラーメンを啜る健人。

久美「……ったく。元気で明るいお姉ちゃん

から、何であんたみたいにひねくれた子が

生まれんだか……」

健人「……」

久美「好きな子出来た？」

健人「はあ？」

久美「あんた性格悪いけど、可愛い顔してんだからそれなりにモテんでしょ？」

健人「うっせえな……」

久美「何よ教えてよ。お姉ちゃんには内緒にしといてあげる」

健人「うっせえな！ いねえよ！」

久美「（笑う）何怒ってんのよ。そんなんじや女の子にモテないよ？」

健人「……」

久美「この前テレビでやってたけどさ、あれでしょ、最近の中学生はセックスとかさ、

結構平気でやっちゃうんでしょ？」

健人「んなわけないじゃん……」

久美「あんたもキスくらいした？」

健人「……」

うんざりしながらラーメンを啜る健人。

×

×

×

時計の針が2時30分を指している。
ソファに寝そべりテレビを観る久美。
それを邪魔臭そうに見つめる健人。

健人「おばさん」

久美「はいこちら久美お姉ちゃん」

健人「……もう帰ったら？」

久美「ん？ あー大丈夫。お姉ちゃん帰って
くるまでちゃんと居てあげるわよ」

健人「暇なの？」

久美「ぴんぽーん」

健人「婚活でもしたら？」

久美「は？ あんた、どこでそんな言葉覚え
るわけ？」

健人「お父さんが言ってた。おばさんて、就
職も結婚もせずに家でゴロゴロして、ほん
とダメな人だって」

久美、起き上がる。

久美「……お義兄さんが言ったのそれ？」

健人「うん。でもほら、おばさんて面倒くさ
い人だけど、よく見ると美人だからさ。い

い年なんだし。真剣に考えた方がいいよ、
人生」

久美「……」

みるみる涙目になり、やがて、奇妙な声
で泣き喚く久美。

健人「あ、いや……おばさん？」

久美「おばさんて言うな！」

荷物を引っ搦んで、走り去る久美。

ぽつねんと取り残される健人。

健人「……ああなったらおしまいだな」

○ あおば台中学校・一年B組

ホームルームの最中。

阿部「というわけで、中間に向けてしっかり

勉強するように！ はい日直！」

号令で起立、礼をする生徒たち。

三々五々散っていく。

将大「やっぱ、健人にバレたかな？」

愛子「何が？」

将大「何がって、俺たちのこと……」

愛子「何で？」

将大「いや、だって……今日あいつ、急に学
校休んでるし……」

愛子「単なる風邪でしょ」

将大「ぜってえ違えよ……バカは風邪引かな
いじゃん？」

愛子「ああ（納得）」

阿部がやってくる。

阿部「おい須田。このプリント、渡辺ん家ま
で届けてやってくれ」

将大「え、俺すか？」

阿部「須田はお前しかいないだろ。仲良いい
だろ渡辺と？」

将大「ええ、まあ……でも用事あんすよ俺」

阿部「ああ？」

将大「それに家反対だし……」

阿部「友達甲斐のないヤツだねえ……あ橋野、
お前渡辺と家近いな？」

愛子「え？」

阿部「これよろしく」

プリントを愛子に手渡して、去る阿部。

愛子「……（将大を睨む）」

将大「ごめん……」

○ 渡辺家・表

派手な格好をした女がやってくる。

デリヘル嬢のひかる（23）。

ひかる「ちよー住宅地なんですけど」

○ 同・2階・父親の書斎

必死にパソコンをいじる健人。

パソコンはエロ動画でフリーズしたまま、

小さく奇妙な音を立てている。

健人「あああくそやべえ！」

玄関の呼び鈴が鳴る。

健人「！」

健人、またパソコンに布を被せる。

○ 同・1階・玄関

ドアを開ける健人。

玄関先にひかるが立っている。

ひかる「……」

健人「あ、どうも」

表札を確認するひかる。

ひかる「……渡辺さん家だよね？」

健人「はい」

ひかる「ちよつと勘弁してよ……お父さん呼んでくれる？」

健人「会社行ってます」

ひかる「は？……お兄さんは？」

健人「学校行ってます」

ひかる「え。じゃ誰があたし呼んだの？」

健人「僕です」

ひかる「……おつかれ」

立ち去ろうとするひかる。

健人「え！ちよつと待ってくださいよ！」

ひかる「何よ！あんた何考えてんのよ！」

健人「ちゃんとお金払いますから！」

ひかる「そういう問題じゃないの！淫行で捕まるっつーの！」

健人「そうじゃないんです！　そういう、その……セックスがしたいんじゃないです」
ひかる「は？……じゃ何よ？」
健人「とにかく。どうぞ（家の中へ誘う）」
ひかる「……」

○ コンビニ・表

下校途中の中学生たちが屯している。

○ 同・店内

屯す中学生たちを眺める結衣。

結衣「お粥、ちゃんと食べたかしら……」

滝本がやってくる。

滝本「おつかれさま」

結衣「あ店長。私そろそろ――」

滝本「ごめん！　もうちょっとだけ残れない

かな？」

結衣「え？　でも朝、3時であがっていいって――」

滝本「うん、分かる。分かるよ。分かるけど、

分かるわけにはいかないのよ。4時までで

いいから。ね！」

結衣「……また遅刻ですか？ 新田君」

滝本「そう！ まったく。これだから学生は

……ねえ？（追従笑い）」

結衣「（苦笑い）」

滝本「じゃよろしく！」

滝本、去る。

結衣「……（軽くため息）」

来客を告げるチャイム。

結衣「いらつしやいませ」

と入口へ振り向く結衣。

自動ドアの前で久美が仁王立ちしている。

久美「（泣き腫らした目）……」

結衣「……どしたの？」

○ あおば台中学校・階段

階段を下りていく愛子。

将大が後を追う。

将大「橋野！」

愛子「（振り向く）何？」

将大「や、その……やっぱ俺も行くか？」

愛子「用事あるんでしょ」

将大「うん、まあ、そうだけど……あのさ、

その……健人にごめんで言っというてよ」

愛子「何が？」

将大「え？」

愛子「何がごめんなの？」

将大「いや、昨日の……ていうか、俺と橋野
のこと」

愛子「どうして須田が謝んのよ？」

将大「いや、だってさ……」

愛子「そういうあやふやなごまかし方、よく
ないと思う」

愛子、去る。

将大「……」

○ 渡辺家・1階・LDK

ケータイをかけるひかる。

ひかる「……あ、ひかるです……お疲れさま

です……はい……60分でいいって……」

健人「……」

健人、キャビネットの上の家族写真をそつと伏せる。

ひかる「……はい……失礼します（切る）」

ソファにどかんと腰を下ろすひかる。

ひかる「で、私に何しろっての？」

健人「あ、はい……あのですねー」

電話のベルが鳴る。

健人「！」

ひかる「電話（アゴで促す）」

恐る恐る受話器を取る健人。

健人「……はい」

○ コンビニ・バックヤード

ケータイをかける結衣。

以下、健人とのCB。

結衣「健人！ あんた久美に何言ったの！」

健人「え、何って？」

結衣「あんたに非道いこと言われたって、う

ちのコンビニにわーわー泣きながら来たわ

よ！」

健人「非道いことっていうか……正論？」

結衣「バカ！何を偉そうに……大体ねー」

ふとひかるを見やる健人。

ひかる「（タバコに火を点けている）」

健人「ちよっとうち禁煙！」

ひかる「え？あそうなの？」

結衣「……誰かいんの？」

健人「え？……いないよ？……」

結衣「……あんた。なんか悪さしてんじやな

いでしょうね？」

滝本がやってくる。

滝本「渡辺さん。レジお願い」

結衣「はい。（健人に）とにかく。今度会

ったらきちんと謝んなさいよ？」

健人「誰に？」

結衣「おばさんに！」

健人「え何で？」

結衣「……もういいわ。じゃあね（切る）」

○ 渡辺家・1階・LDK

受話器を置く健人。

ひかる「……誰？」

健人「(ママと言いかけて)……母親」

ひかる「ふーん」

健人「それより僕、タバコ吸わない人お願い
したんですけど……」

ひかる「普段は吸わないよ。お客さん嫌がる
もん」

健人「ええ……」

ひかる「それよりさ、何か食べるもんない？
朝から食べてないんだよね」

健人「え、なんで僕が？……」

ひかる「じゃあ帰ってもいいわけ？ こっちは
あんたのためにリスク背負ってんだかん
ね？」

健人「……カップ麺なら……」

ひかる「ええ、カップめん？」

健人「……何なら良いんですか？」

ひかる「そうねえ……フォーとかないの？」

健人「ふぉー？」

ひかる「フォー」

健人「ふぉー……」

ひかる「……」

×

×

×

カップ麺を豪快に啜るひかる。

横からポテチを投入する健人。

ひかる「ちよっと、何勝手に入れてんのよ！」

健人「美味しいですから」

ひかる「美味しいですからって……さすがに

これはジャンクでしょ……」

健人「いいから。食べてみてくださいよ」

ひかる「……」

半信半疑で啜るひかる。

ひかる「……んまっ！」

健人「でしょ！」

がつつくひかる。

さらにポテチを投入する健人。

○ 公園の前の道路

愛子が歩いてくる。

コソコソとその後をつける将大。

○ 渡辺家・1階・LDK

空になったカップ麺の容器。

タバコをふかすひかる。

健人「（小さく）あの、禁煙……」

ひかる「ん？ ああ。固い事言わないでよ」

健人「……そろそろ、時間もアレだし……」

ひかる「（鼻で笑う）分かってるわよ。この

エロガキ！」

ひかる、タバコを携帯灰皿へ。

「よっ！」と立ち上がり、ワンピースを

脱いで下着姿になる。

健人「ちよっと！ 何してんですか！」

ひかる「何って、仕事の準備」

健人「そういうんじゃないってさっき言った

でしょ！」

ひかる「そうだったけ？……じゃ何なの？」

健人「とにかくここじゃまずいんで。僕の部屋に行きましょう」

ひかる「はいはい」

ワンピースを手にするひかる。

健人「……まあ別に……」

ひかる「ん？」

健人「……そのままでもいいですけど……」

ひかる「……」

○ コンビニ・店内

棚に商品を補充する結衣。

レジを見やると、滝本が欠伸している。

時計の針は3時半を指している。

結衣「……」

○ 渡辺家・2階・健人の部屋

健人と下着姿のひかるが入ってくる。

カーテンを閉める健人。

健人「そこ（ベッド）座ってください」

ひかる「はいはい（腰を下ろす）」

健人も隣りに座る。

健人「今日お呼びしたのはですね……」

ひかる「うん」

健人「……（小さく）キスしたいんです」

ひかる「（聞こえなくて）ん？」

健人「キスがしたいんです！」

ひかる「キス……えキス？」

健人「はい」

ひかる「えっと……君にはまだ早いんじゃない

い？」

健人「今どき普通ですよ。キスくらい」

ひかる「そうなんだ……」

健人「はい。なので――」

ひかる「あのさ」

健人「はい？」

ひかる「そんなの同級生にお願いしたら？」

健人「……」

ひかる「好きな子とかいないわけ？」

健人「……混み入った事情があるんですよ」

ひかる「何よ事情って？」

健人「……」

ひかる「……ま。言いたくないなら――」

健人「好きな子が、ていうか、僕のカノジョ

が……キスしてたんです。他のヤツと」

ひかる「ええ」

健人「しかも、僕の親友と……」

ひかる「……ドンマイ」

健人「だから僕もキスしないと！」

ひかる「え！　なんか今、ずいぶん話飛んだ

ね！」

健人「キスして見返したいんです！」

ひかる「や、それ見返せるかな……」

健人「はい！　なので早速いいですか？」

ひかる「あれこの流れでいく？」

健人「心の準備は出来てます！」

ひかるの両肩を掴み、ゆっくりと顔を近

づける健人。

ひかる「……あのさ」

健人「はい！」

ひかる「一応聞くけど……」

健人「はい！」

ひかる「……舌は入れるの？」

健人「はい？」

ひかる「舌」

ベロを出して見せるひかる。

健人「……え？」

そこへ、玄関の呼び鈴が鳴る。

健人「！」

カーテンの隙間から外を窺う健人。

門前に立つ愛子が見える。

健人「愛子！」

健人、部屋を飛び出していく。

ひかる「……何なのよ」

○ 同・表

玄関のドアを開ける健人。

門前の愛子と目が合う。

健人「……何か用？」

愛子「これ阿部が届けろって」

プリントを掲げる愛子。

健人「……」

門の前まで出向く健人。

健人「（プリントを受け取り）じゃあ」

と、戻ろうとする。

愛子「話したいことあるんだけど」

健人「……何？」

愛子「中入れてよ」

健人「ここで言ってよ」

愛子「ちゃんと話したいから」

健人「……」

○ 同・1階・玄関

サンダルを脱ぎ散らかして上がる健人。

愛子「……お邪魔します」

と靴を脱いで、健人のサンダルと一緒に

揃える愛子。

○ 同・同・LDK

やってくる健人。

空になったカップ麺の容器や、床に脱ぎ

捨てられたひかるの服で散らかる居間。

健人「……」

愛子がやってくる。

愛子「健ちゃん？」

健人「ちよっと待ってて！ 今2階片付けて

くるから！」

愛子「え？」

階段を駆け上がる健人。

愛子「……」

○ 同・2階・健人の部屋

駆け込んでくる健人。

ひかるがタバコをふかしている。

健人「ちよっと禁煙でしょ当然！」

ひかる「あやっぱり」

健人「立って！（ひかるの腕を掴む）」

ひかる「ちよ、何よ？」

健人「いいから来て！」

と、ひかるを強引に連れ出す。

○ 同・同・父親の書齋

ひかるを引っぱりこむ健人。

健人「ここで静かにしてて！」

と言い残して去る。

ひかる「何よ一体……」

と、タバコを一服。

煙が室内に立ちこめる。

ひかる「どうせ禁煙でしょこも」

窓辺に歩み寄り、カーテンと窓を開け放

つひかる。

さらにタバコを一服。

ふと、門前を徘徊する将大を見つける。

ひかる「……」

将大もひかるに気付く。

将大「……（おずおずと会釈）」

ひかる「……（意味もわからず会釈）」

小さい奇妙な音に気付いて、室内を見渡

すひかる。

布を被ったパソコンが目につく。

ひかる「？」

○ 同・1階・玄関

階段を駆け下りてくる健人。

健人「（息切れして）上、どうぞ」

愛子「大丈夫？」

健人「え、何が？」

愛子「いや、風邪なのにそんな動いて」

健人「ああ……ゴホッ」

と、わざとらしく咳き込む。

○ 同・2階・健人の部屋

健人と愛子が入ってくる。

うつすらと紫煙が残る室内。

愛子「ウソ。健ちゃんタバコ吸ってんの？」

健人「え？……ああ、まあね（と居丈高）」

愛子「ふーん（さしたる興味も無い）」

カーテンと窓を開け放ち、煙を追い出す

健人。

健人「で話って何？」

愛子「私と須田のこと」

健人「……」

愛子「見たでしょ。公園で」

健人「……何を？」

愛子「キスしてるところ」

健人「……見たよ」

愛子「やっぱり。みんなにはバラさないでね。

一応まだ秘密だから」

健人「……ていうかき、謝罪の言葉は無いわけ？」

愛子「は？」

健人「浮気じゃん完ぺき！　ゲスだよゲス！」

愛子「（無表情）」

健人「えだって浮気でしょこれ！　彼氏いんのにさ！」

愛子「誰に？」

健人「誰についてお前に！」

愛子「私に？　誰が？」

健人「誰がって……えちよつとやめてよ」

とおどける健人。

愛子「……」

健人「付き合ってるよね、俺たち？」

間・・・。

愛子「健ちゃんさ。それ違うよ」

健人「え？」

愛子「付き合ってるよ。私と健ちゃん」

健人「……」

愛子「ただの幼なじみじゃん私たち」

健人「でも……林間学校でさ、ほら、オクラ

ホマミキサーのとき……好きな人、俺って」

愛子「それ小五の時じゃん」

健人「まあ、はい……」

愛子「とにかく。今は須田と付き合ってるから」

健人「……」

愛子「じゃあそういうことで」

と去ろうとする愛子。

健人「……んあああああ！」

と絶叫して、愛子をベッドに押し倒す。

愛子「ちよ、やめてよ！」

と抵抗する愛子に、無理矢理キスを迫る

健人。

健人「キスくらいさせてよ！」

愛子「バカじゃないの！ どいてよ！」

と、健人を突き飛ばす。

ベッドから転げ落ちる健人。

健人「あいたツ！」

愛子、乱れた髪を整えながら。

愛子「健ちゃんさ。もう子供じゃないんだから、こういうのシヤレにならないよ」

健人「……」

しくしくと泣き出す健人。

愛子「ちよつと。泣かないでよ」

いつそう激しく嗚咽する健人。

愛子「……キスしたらいいの？」

健人「（嗚咽しながら頷く）」

愛子「キスしたらもう泣かない？」

健人「（嗚咽しながら二度頷く）」

愛子「つつたく……」

健人の肩を掴み、顔を近づける愛子。

健人、目をつぶり待つ。

二人の唇が触れる間際・・・。

女の声「あああああゝん！」

と壁の向こうから響き渡る嬌声。

愛子「……」

健人「……」

○ 同・表

二階の窓から漏れ聞こえる女の嬌声。

将大「え？ ええ！」

オロオロする将大。

○ 同・2階・父親の書斎

パソコンから大音量で流れるエロ動画。

タバコを啜えて固まるひかる。

開いたドアの側で立ち尽くす愛子。

その陰で小さくなる健人。

一同絶句・・・。

ひかる「ごめん。適当いじってたら、なんか

動いちゃって」

とエロ動画を止める。

健人「……」

恐る恐る愛子を見やる健人。

愛子が健人を睨んでいる。

健人「や、この人……俺のおばさん」

間髪入れずにビンタを見舞う愛子。

愛子「サイテー！」

と憤怒して去る。

力なく見送る健人。

健人「終わった……」

ひかる「……大丈夫？」

健人「……」

ひかる「うん。まあダメか」

健人「……」

ひかる「延長する？」

健人「……は？」

ひかる「いや時間。そろそろ」

時計を見やる健人。

すでに3時55分。

○ 同・表

玄関から飛び出してくる愛子。

門前で徘徊する将大を見つける。

愛子「須田？」

将大「あ……オッス……」

愛子「何してんのここで？」

将大「何してんのって……まあ（追従笑い）」

愛子「……」

将大「橋野こそ……家の中で何してたの？」

愛子「は？」

将大「声……すごい聞こえたから……」

愛子「……あんたらバカじゃないの！」

憤怒して立ち去る愛子。

将大、オロオロと追いかける。

○ コンビニ・店内

レジ番の結衣。

新田（19）がやってくる。

新田「おつかれさまっす……」

結衣「あ。新田君」

バックヤードから滝本がやってくる。

滝本「ちよつと困るよ新田君！ 遅刻ばつか

しちや！」

新田「はい。さーせん……」

滝本「ほら早く着替えて！」

新田「あの店長……」

滝本「何？」

新田「僕バイト辞めたいんすけど……」

滝本「はあ！ もういいからとにかくレジ入

ってよ！」

新田「うつす……」

バックヤードへ向かう新田。

滝本「……ったく。最近の若いヤツは何考え

てんだか。ね？」

結衣「はあ……あの、私そろそろ――」

滝本「あ！ うん、ありがとう！ 息子さんお

大事にね！」

結衣「どうも……」

○ 渡辺家・1階・玄関

健人とひかる。

健人「これ……」

と、万札を2枚差し出す。

ひかる「（受け取り）うっかりしてた。ほん

とは前金制なんだよね」

と笑い、財布に仕舞うひかる。

気落ちしている健人。

ひかる「何よ。元気出しながら！」

健人「出るわけないでしょ……明日から口も

きいてくれませんよ……」

ひかる「……じゃあ目つぶって」

健人「え？……」

ひかる「いいから目つぶんなさい！」

健人「……」

渋々目をつぶる健人。

ひかる、健人の頬にキスする。

健人「（目を丸くして）え……えええ！」

ひかる「君はまだ子供なんだから。これくら

いで十分」

財布から名刺を取り出すひかる。

ひかる「次はもっとイイこととしてあげる」

名刺を受け取る健人。

健人「もつとイイこと……」

ひかる「そう。じゃまたね」

と立ち去るひかる。

佇む健人。

○ 幹線道路（夕）

結衣が自転車で走ってくる。

カゴには買い物袋が積んである。

○ 公園の前の道路（夕）

走ってくる結衣。

ふと自転車を止めて、公園内を見やる。

ブランコで何やら口論する愛子と将大。

結衣「……いいわね。青春て」

と、また自転車を漕いでいく。

○ 渡辺家・1階・玄関（夕）

買い物袋を上がり框に置く結衣。

結衣「ただいまー」

と呼びかけるが、返事はない。

○ 同・2階・健人の部屋（夕）

結衣「健人？」

と入ってくる結衣。

ベッドの中の健人。

結衣「調子どう？」

健人「んんん……」

結衣、健人の額に手を当てる。

結衣「あらやだ。今朝より熱あんじやない」

健人「んんん……」

結衣「ちゃんと寝てたんでしょうね？」

健人「んんん……」

結衣「んんんばっか」

冷えピタを健人の額に貼る結衣。

結衣「夕飯。カレー食べれる？」

健人「（かぶりを振る）」

結衣「でしょうね。何なら食べれそう？」

健人「……」

結衣「おうどん？ お粥？」

健人「…………ふおー」

結衣「は？」

健人「ふおー…………」

結衣「…………フオー？」

健人「（頷く）」

結衣「…………変な子ね。んなもんあるわけないでしょ」

健人「…………」

結衣「おうどん作ったげるから。おとなしく寝てなさい」

と窓辺のカーテンを閉めて、去る。

結衣が去ったことを確認すると、布団の中からそろそろと何かを取り出す健人。

それは・・・ひかるの名刺。

健人、熱に浮かされた顔で笑う。

（了）